

を語る 1

あわら市（福井県）

あわら市長

橋本達也 はしもと たつや

次の10年、そしてさらなる未来へ 魅力あるまちづくり

合併後10年のあゆみ

福井県の最北端に位置するあわら市は、本年3月に市制施行から満10年を迎えました。

本市では、少子高齢化の進行や、税収の減少といった非常に厳しい社会経済状況の中、合併効果を最大限に発揮しながら、この10年間は、主に市民の安全と安心に重点を置いた施策を展開してきました。市内全小中学校の耐震改修、市内全域における防災行政無線の整備、消防署の新築移転などを行ったほか、幼児園と子育て支援センターを兼ねた総合福祉施設や、図書館と郷土歴史資料館を備えた生涯学習施設の金津本陣IKOSSAなど、生活に直結した施設などの整備も行ってきました。

若い世代が住み、生み、育てたくなるまち

まちの活力は、そこに集い、暮らす人々の活気に比例します。そのためには、若い人たちに住んでもらい、子どもを産んでもらい、育ててもらうことが必要です。これを実現するための施策を体系化したものがHEECE構想です。

HEECEとは、「健康」のHealth、「教育」のEducation、「環境」のEnvironment、「コミュニティ」のCommunity「経済産業」のEconomyからそれぞれの頭文字を取った本市オリジナルの言葉です。

平成22年度から事業を開始し、5年目の本年は、健康7事業、教育4事業、環境3事業、コミュニティ9事業、経済産業5事業の合計28事業を展開しています。

新幹線とまちづくり

平成27年3月には、北陸新幹線の長野―金沢間が開業します。本市では、北陸新幹線の金沢開業とその後の県内延伸により、首都圏や関東、信越方面からの観光客の増加が見込まれるため、観光客を呼び込むための魅力あるまちづくりを急ピッチで進めています。

まず、この4月には、福井県随一の温泉郷である、あわら温泉街に北陸最大規模の「芦湯（足湯）」がオープンしました。浴槽は全部で5つあり、2本の源泉とそれらを混ぜ合わせた3種類の温泉が楽しめます。

今後はさらに、温泉街の歩道新設や修景整備などを通して、温泉観光地としての付加価値を高め、観光客や市民が歩いて楽しめる温泉



本年4月にオープンした北陸最大規模の「芦湯（足湯）」

泉情緒あふれる華やきに満ちた観光地を目指します。

また、もう一方の拠点であるJR芦原温泉駅周辺では、にぎわい交流広場に拠点施設を整備します。カフェや情報発信などの機能のほかに、にぎわい市やミニコンサートなどを開催できるイベントスペースを備え、そこからまちなかにある金津本陣IKOSSAまでのエリアを本市のエントランスゾーンとして整備します。

ソフト事業の充実へ

ここで大事なポイントは、そのまちに住む人たちの日常の営みが、観光客にどのような感動を与えるかというソフト事業です。さらには、いかにして、それを全国発信するかという戦略だと思います。

ソフト事業については、今年で4年目を迎えるオンパク事業があります。オンパクとは、温泉泊覧会の略語で、地域資源を活用し自分たちのまちを元気にしようという取り組みです。地域資源の掘り起こしと体験プログラムを充実させながら、滞在・交流型のまちづくりを展開するものです。平成25年は、子どもから大人までみんなが楽し



図書館と郷土歴史資料館を備えた生涯学習施設「金津本陣IKOSSA」

める32の体験プログラムが用意され、観光客の皆さまに本市の自然や歴史、文化を楽しんでいただきました。今後とも、このようなソフト事業の充実にしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

全国発信については、本市では、現在、さまざまな活動を展開しています。

その1つに、市の観光プロモーションビデオの制作があります。これは、「利休にたずねよ」や今春公開された「サクラサク」の田中光敏監督によるもので、全国公募したショートストーリー4本で構成されています。完成したプロモーションビデオは、インターネットなどを通じて全国に発信していきます。

また、この6月には、競技かるたを題材にした漫画「ちはやふる」とのコラボイベント「ちはやふるweek」を企画しました。この作品では、ストーリーの要となる登場人物があらわら市出身となっているため、物語の中には、本市の町並みの様子などが数多く描かれています。本市を全国にPRするチャンスであることから、今後ともこのような取り組みを検討していきたいと考えています。

幸福な県の一 幸福なまちへ

私は、「幸福」や「豊かさ」といった言葉が、これからの社会のキーワードになると思っています。本市のある福井県は、都道府県別の幸福度ランキング（2014年版）で第1位となっています。このランキングは、シンクタンクの日本総合研究所が、健康、文化、仕事、生活、教育分野などの60項目の指標を基に分析したもので、人口や

プロフィール

- ◆ 面積 116.99km²
- ◆ 人口 2万9499人
- ◆ 世帯数 1万6世帯

〔将来都市像〕 ゆうゆうと人が輝く
いやしと創作のまち

〔まちの特徴〕 海、山、川、湖など美しい自然と豊かな農作物などの大地の恵みに満ちあふれたまち

〔市町村合併〕 平成16年3月1日、芦原町と金津町が合併してあらわら市誕生



あらわら市長
橋本達也



〔特産品〕 越のルビー、梨、メロン、スイカ、越前柿、富津甘藷、温泉ピッツア、あらわら温泉パン

〔観光〕 あらわら温泉、金津創作の森、吉崎御坊跡、北潟湖畔公園、藤野厳九郎記念館、刈安山森林自然公園

〔イベント〕 蓮如忌、若原温泉春まつり、あらわら北潟湖畔花菖蒲まつり、金津祭、あらわら湯かけまつり、あらわら北潟湖畔観月の夕べ

経済指標だけでは測れない、豊かさを表したものとされています。

本市は合併後10年を経過し、これからは合併自治体として国から受けてきた支援が徐々に縮小されるなど、市を取り巻く状況は厳しさを増していきます。このような中ではありますが、「住んで良し、訪れて良し」の「幸福な県の一 幸福なまち」の実現に向け、全力を尽くしていきます。

「日本一幸福な県の一 幸福なまちへ」ぜひお越しください。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

北関東の新中核的都市を目指して

**水と緑と万葉の地に広がる
交流拠点都市**

佐野市は、関東平野の北端、東京から70km圏に位置し、緑豊かな森林や美しい清流などの自然環境に恵まれた中山間地域と佐野新都市に代表される住宅や産業基盤が集積する都市的地域を併せ持つ、バランスの取れた住みやすいところです。

市の東部にある唐沢山城跡は、関東有数の大規模な山城で、関東七名城にも数えられており、山頂部の高石垣と山麓部の居館群が良好な状態で残っています。中世城館の展開を知る上で重要かつ貴重な歴史的遺産で、本年3月には国指定の史跡にも指定をされました。

田中正造翁生誕の地として

本市は、環境問題の先駆者「田中

正造翁」生誕の地でもあります。平成25年は没後100年という節目の年で、「まんが田中正造」の発刊や「田中正造記念賞」の創設などさまざまな顕彰事業を開催し、正造翁の功績をたたえとともに、多くの皆さんに正造翁をより身近に感じていただくことができました。これを契機に、正造翁の思いを広く伝えることにより、本市から循環型社会の構築に向けた取り組みを全国に発信してまいります。

**観光立市 シティプロ
モーションで魅力発信**

本年度からスタートした「後期基本計画」では、「観光立市」と「スポーツ立市」をリーディングプロジェクトに掲げ、さらなる市勢伸展を目指しています。

「観光立市」の目的は、一言で言

うと「住んでよし、訪れてよし」の佐野市を築き上げることです。つまり、単に「観光客を増やす」とか「物を売る」ということだけでなく、「佐野市」自体をブランド化し、ふるさと佐野市に対する愛着と誇りへとつなげ、さらには、地域の活性化や定住人口の増加へと結び付けていかなければなりません。

最初に取り組んだ「お宝・自慢調査」では、市民と職員が一緒になって、市内すべての町会の名所旧跡・お祭り・特産物など、ありとあらゆるものを調査し、地域の誇りや愛着心の掘り起こしを行ってまいりました。

さらに、「さのらしさ」を追求した「佐野ブランド戦略」を展開することにより、来訪者の市内への回遊促進と新規来訪者の獲得を図り、観光入込客数は850万人を超え

るほどになりました。

また、市民の皆さんへのアンケートでも、8割を超える方に「佐野市は住みやすい」「佐野市に住みたい」との回答を得ており、「住んでよし、訪れてよしの佐野市」が、市民の皆さまにも実感を伴って浸透しつつあると感じています。

しかし、全国「魅力度ランキング」では、栃木県は41位と低迷を続けており、市民の皆さんには、「住みやすさ」「佐野の魅力」を高く評価し



昨年没後100年を迎えた田中正造像



“さのまる”（右から4番目）が日本一に輝いた「ゆるキャラグランプリ2013」

ていただいています。その価値を外に向けてアピールできるまでには、至っていないのが現実です。

そこで、本市の魅力を効果的に分かりやすく、全国の皆さんに伝える「シティプロモーション」が必要となるわけですが、その牽引役として大きな可能性を秘めているのが「ゆるキャラグランプリ2013」で日本一に輝いた「さのまる」です。これは市民の皆さんの郷土愛、ふるさとを盛り上げようという熱い気持ちが結集したもので、今こそ、「さのまる」を先頭に、市民一丸となって積極的なシティプロモーションを展開することにより、全国に佐野市の魅力を発信してまいります。

スポーツ立市 ― スポーツの力をまちづくりへ ―

さらに、新たな取り組みとして、

スポーツによるまちづくり「スポーツ立市」を進めています。

スポーツは、健康増進や余暇活動にとどまらず、多くの人に夢や希望、感動、勇気を与えてくれます。そして郷土のチームや選手の活躍は、郷土愛や一体感をはぐくみます。

そして、「する」「観る」「支える」といったさまざまな参加形態があり、それによって人が動き、地域活性化の大きな可能性を秘めています。すなわち、シティプロモーションの大きな柱になるわけです。

本年5月には、東アジア太平洋地域女子クリケット選手権が本市を会場に開催され、5カ国の代表チームが熱戦を繰り広げました。秋には、イギリスの名門クリケットクラブとの交流試合も予定されており、国際交流や「佐野市を世界に売り込む」といった観点からも、スポーツ交流は意義深いものと考えております。また2020年の東京オリンピックにも積極的にいかかわっていくとともに、スポーツツーリズムの推進体制を整えることにより、「スポーツの力」をわが佐野市のまちづくりに、ぜひとも生かしてまいりたいと考えております。

交通の要衝 ― 物流拠点都市を目指して ―

本市は、東北自動車道と北関東自動車道が縦横に交差し、3つのICを持つ交通の要衝です。また、温暖で恵まれた気象条件であることも全国に誇れる資源です。現在、この「地の利」を最大限生かすべく、佐野田沼インター産業団地をはじめ

めとする産業団地の造成と企業誘致を進めており、さらには、内陸の港「インランドポート」の実現に向けた取り組みを推進し、物流拠点都市の構築と雇用の創出や地域産業の活性化につなげてまいります。夢と希望と潤いのあるふるさと佐野市づくりへ、市民の皆さんとともに北関東の新たな核的都市を目指して力強く歩み続けます。

プロフィール

- ◆ 面積 356.07km²
- ◆ 人口 12万2582人
- ◆ 世帯数 4万9531世帯

〔将来都市像〕育み支え合うひとびと、水と緑と万葉の地に広がる交流拠点都市

〔まちの特徴〕栃木県の南の玄関口、東京から車で1時間という立地にあるながら、四季を感じる豊かな自然環境に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成17年2月28日、佐野市、田沼町、葛生町が合併



佐野市長
岡部正英



〔特産品〕佐野ラーメン、いもフライ、いちご、耳うどん、仙波そば、かき菜、天明漬物、ひな人形

〔観光〕佐野プレミアムアウトレット、佐野厄よけ大師、道の駅どまんかため、安藤勇寿「少年の日」美術館、佐野市立吉澤記念美術館

〔イベント〕大澤駅伝競走大会、田沼初午祭、佐野スプリングフラワーフェスティバル、くずうフェスタ、どまんかフェスタ、さの秀郷まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

豊かな自然と開国の歴史に
あふれた下田市

下田市の魅力

平成23年に市制施行40年を迎えた下田市は、伊豆半島の南部東側に位置し、北は天城連山に連なる山々を配し、南は約47kmに及ぶ美しい景観の海岸線を有しています。

1年を通じて温暖な気候は、四季折々の花を育て、白い砂浜と鮮やかなエメラルドグリーンのコ



下田市最大のイベント「黒船祭」

ントラストが生み出す浜辺は、息を飲むほどに美しい光景であり、サーフィン、ヨット、フィッティングなどマリンスポーツのメッカです。

1854年には、米国ペリー提督率いる黒船艦隊が下田港に入航、わが国最初の開港場となりました。

本年はその開港160周年となります。

本市のまちなかには、当時を物語る史跡が残され、白と黒の格子柄が目玉を引く「なまこ壁」は、下田独特の雰囲気醸し出しています。

開国ロマンあふれ、南国情緒豊かな下田市で、ぜひとも開放感いっぱいの休日をお過ごしください。

歴史ある黒船祭

昭和9年に、国内外先賢の偉業を顕彰し、偉大なる功績を永遠に記念するとともに、世界平和と国際親善に寄与するため、第1回黒船祭が開催されました。ペリー提督、ハリス総領事をはじめとする開国の偉人をたたえ、日米親善、

国際交流をテーマに、毎年5月、国内外から多くの皆さまをお招きし、黒船祭が開催されます。

記念式典や墓前祭が厳かに行われる一方で、町内や海辺の会場では市民手づくりの活気にあふれたイベントが目白押しとなり、新緑の季節、なまこ壁や海兵隊の白と黒のコントラストが美しい、「幕末タイムスリップ」をテーマにした本市最大のイベントです。今回の黒船祭には、皆さまのお越しをお待ち申し上げております。

観光まちづくりの4本柱

観光は、本市の中核産業、総合産業、地場産業であります。「自然と歴史を活かし、やすらぎと活力のある美しいまち」の実現を目指し、観光まちづくりの具体的な行動指針となる「観光まちづくり推進

計画」を策定し、4つのプロジェクトを立ち上げました。
1つ目が「美しい里山づくりプロジェクト」です。

南伊豆地域は放置竹林が多くなり、イノシシやサルの被害が大きくなっています。農林業に携わっている方々の高齢化が進み、かつては、管理が行き届いていた里山も今では、荒れ放題になるという悪循環が生じています。産業にするための新商品開発や6次産業化も視野に入れて、里山の整備と、有害鳥獣対策を進めていきます。

現在、モデル地区において、荒廃している森林を、地域住民や子どもたちとともに行政が協働し、お吉桜の名所として、併せてホテルの舞う美しい里山へと生まれ変わらせようと「お吉桜を保存し普及する会」が活動しています。

2つ目は「世界一の高づくりプロジェクト」です。

市民も観光客も、子どもからお年寄りまで誰もが1年を通じて海



世界一の海づくりプロジェクト

を知り、感じて、触れて、楽しむことができる「世界一誇れる海」「世界一身近に楽しめる海」をつくり上げていくプロジェクトです。海の体験プログラムを中心に、その達人との交流を充実させ、海の美しさを表現したポスターの作成、メール配信、ホームページ「しーもん」の開設、道の駅への案内コーナーの開設などを行っております。

本市には、大小さまざまなビーチがあり、それぞれが個性豊かな特徴を持っています。マリンスポーツを楽しめる大規模な浜から、家族連れ、女性向きのアットホームな浜辺まで、その趣は多様です。国内とは思えないようなエメラルドグリーン的大海と白い砂浜、その美しい景観を皆さまの心の思い出に加えてください。「いつ来ても何度来ても楽しい海、美しい海・下田」は、

本年も皆さまをお待ちしています。3つ目は「30カラースプロジェクト」です。

本市の多様な魅力を掘り起こし、ニーズごとにリーフレットを作成、ユーザーの要望に応じた情報を提供し、着地型観光を確立し、コンシェルジュの育成や、下田30カラースブランド商品の開発を推進します。効果的な情報発信を担うプロジェクトとして位置付け、各プロジェクトが連携して本市の固有の歴史、文化や町並みなどの多様な魅力を発信し、まち全体のブランドイメージを創出することを目指しております。

4つ目は「美味しいまちづくりプロジェクト」です。

本市は、江戸航路の港町文化と南伊豆地域の中心地として、食文化が質、量ともに高いまちです。豊かな山海の幸をテーマとした美味しいまちづくりを推進し、「下田がんバル」開催によるバルシテイや、日本一の水揚げ高を誇る金目鯛のブランド化を展開しています。金目鯛は、魚体の色が赤く、目が金色に輝いていることから「キンメダイ」と呼ばれ、金目鯛料理が独自の食文化を育んでいます。煮付け、

刺身は定番ですが、市内各所ではコロッケやハンバーガー、しゃぶしゃぶなど、さまざまなメニューが展開されています。魅力ある土産品や地場の食材を活用したご当地グルメの開発、さらには金目鯛を缶詰にした「きんめ缶」、きんめ井（きんめがどーん）など、金目鯛を素材として生かし、下田市のブランド化を推進してまいります。

樽の中にキンメグズをはじめ

プロフィール

- ◆ 面積 104.71km²
- ◆ 人口 2万3863人
- ◆ 世帯数 1万1399世帯

〔将来都市像〕自然と歴史を活かし、やすらぎと活力のある美しいまち

〔まちの特徴〕下田開港の歴史を伝える品々や史跡が多く残され、豊富な湯量を誇る温泉、四季折々の自然豊かなまち

〔特産品〕金目鯛、下田S級サザエ、さんま寿司、伊勢エビ、ところてん、



下田市長
楠山俊介

脂松細工

〔観光〕龍宮窟、下田海中水族館、下田開国博物館、吉田松陰寓居処、玉泉寺、宝福寺、了仙寺、長楽寺、伊豆クルーズ、下田ロープウェイ、ハーバーミュージアム

〔イベント〕お吉祭り、黒船祭、あじさい祭、白浜海の祭典、国際カジキ釣り大会、下田太鼓祭り、海洋浴の祭典、ビッグシャワー、水仙まつり



地場産品をセットした「下田きんめだる」も、各種大会などの商品として提供しており、ロンドン、ソチのオリンピックやパラリンピックで活躍された金メダリストには、新鮮な「須崎日戻りきんめ」を添えて贈呈いたしました。

「暮らす人も、訪れる人も快適なまち『快国』下田」をテーマに「一流の生活地こそ一流の観光地」を目指したまちづくりを進めております。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「鳥の目線」でダイナミックに！ 「虫の目線」できめ細やかな市政を！

世界的に貴重な霧島山

昭和9年にわが国最初の国立公園に指定された霧島山の特徴は「景観」「火山の博物館」「植生」「神話と歴史」の4つがあります。

桜島、錦江湾、開聞岳を望み、眼下に薩摩半島と大隅半島が横たわります。山頂からの「景観」はまさに絶景です。

また、大小20を超える火山や火口湖は、成層火山、火砕丘、マー



日本で最初の国立公園「霧島山」

ルなどさまざまな火山に出会える「火山の博物館」でもあります。

さらに霧島山は「植生」の宝庫で、噴火による植生遷移の過程が観察できます。世界でここにしか自生しないノカイドウをはじめ、約1300種の植物の多様性を実現しています。新燃岳の約300年ぶりの大噴火から3年が経過しましたが、堆積した軽石の間からミヤマキリシマが咲き始めました。今まさに噴火後の植物の再生を観察できる魅力も備わりました。

そして霧島山は「神話と歴史」の山でもあります。古事記や日本書紀に登場する天孫降臨の舞台となった高千穂峰。ここから日本が始まりました。その神々を祭った霧島神宮は高千穂峰の御鉢の噴火により焼失を繰り返し、火山の歴史とともに現在地に至ります。火

山の歴史が神話の歴史でもあるのです。

日本中の霊山の中から、なぜ、古事記では高千穂峰が天孫降臨の舞台に選ばれたのでしょうか。

霧島市は平成25年、大隅国建国1300年という歴史の節目を迎え、講演会や史跡巡り、市民参加型ミュージカルの公演、隼人舞の共演、鹿児島神宮の秘宝展など、多くの記念事業を開催し、歴史に学び、未来を創造する素晴らしい1年となりました。和銅6（713）年4月3日（新暦5月5日）に、朝廷がハヤトを制圧しこの地に国府を置き大隅国を建国しました。最後まで朝廷に抵抗したハヤトにとって高千穂峰は曾乃峯として崇められ、精神的にも宗教的にも大切な山であり、この山に朝廷の先祖であるニギノミコトが降臨し

たと古事記に物語として著すことで、南九州が完全に朝廷の支配下に置かれたことを記したとされています。魅惑に満ちた山「霧島山」です。

さらに、世界の霧島へ

その霧島山は、本年、国立公園指定80周年を迎えました。また、平成24年には、錦江湾奥域が追加編入され「霧島錦江湾国立公園」として新たな時代を迎え、霧島市は山と海の国立公園に囲まれた自然



錦江湾から望む霧島市

豊かな地域で、日本ジオパークにも認定され、現在、世界ジオパークの認定に向け挑戦しています。

また、この大自然の中で毎年夏に開催される「霧島国際音楽祭」は本年度35回目を迎え、日本で有数の歴史を誇る、アジアトップレベルの音楽祭となりました。

温泉天国「霧島」

本市は温泉の宝庫です。国内にあるほとんどの泉質を有し、多種多様な温泉を楽しむことができます。ホテルや旅館だけでなく、家族や仲間の日帰り温泉を楽しめる「家族風呂」の施設が多いのも霧島温泉の特徴です。

これらの霧島の温泉の魅力を情報発信するために企業と提携し、テレビ番組などでも有名な、お風呂玩具「アヒル隊長」を温泉大使として任命し霧島温泉の魅力と「浴育」を全国にPRしています。

南九州のど真ん中！

鹿児島・宮崎・熊本3県の中心に位置する本市は、上海・ソウル・香港・台北などの海外路線を持ち、3県民が地元空港として利用する鹿児島国際空港や鉄道・高速道路

などを有し、南九州の交通の要衝となっています。京セラ・ソニー・トヨタ車体研究所など最先端の企業約100社が立地し、黒豚・黒牛・黒さつま鶏・黒酢・黒酢ぶりにんにく・焼酎など特産品も豊富で、中でも霧島茶は全国茶品評会で日本一に輝く名産地でもあります。

将来を見通し鳥の目線で

そして本市は、平成27年、市制施行10周年を迎え、同時期に国民文化祭が開催されます。2018年は明治維新150年。2020年の東京五輪開催年の秋、鹿児島県では国民体育大会が開催されます。将来を見通しながら、広域連



お茶畑と鹿児島国際空港

携についても本市から連携を積極的に働き掛けています。

霧島山をふるさにと持つ県境を越えた7つの自治体で「環霧島会議」を、錦江湾奥に位置する4つの自治体で「錦江湾奥会議」を設置し、環境・防災・観光・教育・交通・産業・広報などをテーマに、人口約112万人の圏域のリーダーとして、広域の課題解決に取り組んでいます。

プロフィール

- ◆ 面積 603・15km²
- ◆ 人口 12万7795人
- ◆ 世帯数 5万9703世帯

〔将来都市像〕人と自然が輝き、人が拓く、多機能都市

〔まちの特徴〕世界にひらく、人と自然、歴史・文化がふれあう都市

〔市町村合併〕平成17年11月7日、旧国分市と旧郡部6町が対等合併

〔特産品〕黒豚、黒牛、黒さつま鶏、



霧島市長
前田終止



黒酢、黒酢ぶりに、黒にんにく、焼酎、霧島茶、トマト

〔観光〕国立公園の霧島山と錦江湾、温泉、霧島神宮、鹿児島神宮、森林セラピー、ジオツアー、坂本龍馬日本最初の新婚旅行の地、観光農園、神話の里公園

〔イベント〕霧島国際音楽祭、天孫降臨霧島祭、霧島国分夏祭り、龍馬ハネムーンウォークin霧島など

特に環霧島会議では、設立後直ちに「霧島火山防災マップ」を作成いたしました。これが新燃岳噴火の防災対策に早速生かされ、関係機関から高い評価をいただきました。

「鳥の目線」で県境をも越える大胆な発想により、「虫の目線」で市民一人一人に隅々まで行きわたる市政を推進し、市民の皆さまと一緒に目指しています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。